

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 9 月 12 日現在

機関番号：12701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26630239

研究課題名(和文) 東南アジア版鉄道雑誌の試作と現地の鉄道文化育成に与える影響

研究課題名(英文) A study on raising railway-culture through publishing railway journals in South-East Asian Region.

研究代表者

中村 文彦 (NAKAMURA, Fumihiko)

横浜国立大学・都市イノベーション研究院・教授

研究者番号：70217892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、都市鉄道が普及しつつある東南アジア大都市において、鉄道が人々に認知され、さまざまなかたちで関わりを持つようになる可能性(鉄道文化普及可能性と名付ける)を探るため、タイを対象に、鉄道愛好雑誌の東南アジア版を試作し、東南アジアの人々の関心の持ち方を計測することを目的とした。試作品を作成し、タイの現地学生を中心としたアンケート調査を行い、その結果をもとに再度試作品を作成し、さらに現地で再度アンケート調査を実施した。最終的な結果として、東南アジアにおいて、未知の交通システムや日本の優れた事例への関心が高いこと、都市内の公共交通への意識が高いこと、総じて購入意思があることを確認した。

研究成果の概要(英文)：This Research seeks some sort of possibility that urban railways would become well known and popular by the citizen in developing countries. The research has been designed to measure how people in South-East Asian countries could be interested in urban railway journals, which are very popular in Japan and England. The research group has published two editions of urban railway journals focusing only on South-East Asian countries. After the publication, another surveys were conducted again in Thailand. The analysis results of the two surveys show us that unknown brand-new travel modes and Japanese ones could attract more people. In addition, attitudes to public transportation was found generally quite high. Therefore, the research concludes that these journals could be very informative and impressive for various age strata. This kind of activities could enhance the modal shift especially from private modes to public transport mode.

研究分野：工学

キーワード：開発途上国 タイ 都市鉄道 鉄道文化 鉄道雑誌 態度変容

### 1. 研究開始当初の背景

開発途上国の都市交通の研究については、そもそもの道路や鉄道整備の効果を分析する研究や、深刻な問題としての交通安全や環境問題との関連を分析するものが多い。市民の交通行動に着目して、その行動実態を分析するものや交通手段選択の意識にかかる研究例も増加している(Tan Van (2006)等)。しかしながら、より根本的な背景となる、交通機関に対する意識の定着にまでは踏み込んでいない。日本との違いを多角的にみる中で、日本における鉄道と人々とのさまざまな関わり方(鉄道文化)が、日本での交通手段に対する意識に影響を与えている面に着目し、開発途上国での鉄道文化の普及可能性を追求する意義があることに気づき、本研究を企画した。

### 2. 研究の目的

本研究では、都市鉄道が普及しつつある東南アジア大都市において、鉄道が人々に認知され、さまざまなかたちで関わりを持つようになる可能性(鉄道文化普及可能性と名付ける)を探るため、我が国での鉄道と人々との関わりの中の、鉄道愛好雑誌の意義を確認した上で、同種の鉄道愛好雑誌の東南アジア版を試作し、東南アジアの人々の関心の持ち方を計測することを目的とする。在来鉄道の歴史があり、都市鉄道の種類も増加し、一方で、国民の教育水準及び経済水準の向上もみられるタイを対象とし、思索品雑誌を試読していただき、意識を計測する。開発途上国の都市交通研究における人々の意識変容にかかる実践的研究として位置づけられ、今後の自動車抑制の可能性を示唆できる。

### 3. 研究の方法

研究活動としては、日本や欧州にある鉄道雑誌のレビュー、タイ向けの試作品のコンテンツの検討、試作品第1号の作成、アンケート調査の設計、タイ人学生へのアンケート調査の実施と分析、前項を受けて試作品第2号の作成、アンケート調査の再設計、タイ人学生へのアンケート調査の実施と分析、まとめ、の手順を踏んだ。

### 4. 研究成果

#### (1) 日本や欧州にある鉄道雑誌のレビュー

定期刊行物としての鉄道雑誌としては、たとえば図1にある3誌が知られている。いずれもいわゆる鉄道マニア向けの情報誌の側面とともに、交通政策にかかる論考が掲載されている点が共通している。歴史的な視点、最新情報の視点、車両の視点、システムの視点、交通政策の視点が含まれるとともに写真が多用されている点も特徴的である。これらを参考に、タイ人読者を想定して試作品のコンテンツの検討を開始した。



図1 内外の有名な鉄道雑誌

#### (2) 試作品第1号の作成

試作品第1号は、この10年ほどのタイでの鉄道に関するトピックに、バンコクの都市交通政策的な視点も込めて、下記の5項目で構成した。試作品第1号については、以下図2に示す。City Life with Modern Railway -Bangkok BTS-, The Dream of LRT、A Trip with Overnight Express Train、The National Railway Station : Hua Lamphong、Airport Rail Link Connecting between Suvarnabhumi Airport and City

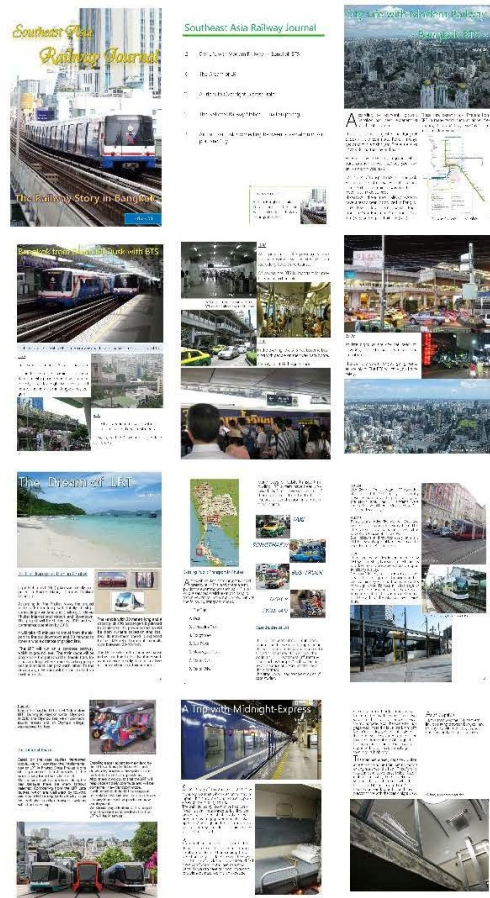




図2 試作品第1号

(3) 試作品第1号に対するアンケート調査の設計と実施

アンケートにあたっては、試作品第2号につなげるべく項目を絞り、以下を尋ねることとした。各記事については、5段階評価で、興味深さ、わかりやすさ、写真の適切さ、専門性、情報の新鮮さ、全体については、どの記事が一番面白かったか、売っていたら購入するか(しない/500円未満なら/1000円未満なら/1000円以上でも) 回答者については、国籍、自国で鉄道を利用するか、利用の主な目的は何か(通学、帰省等) 自国で自家用車を頻繁に利用するか、を尋ねた。

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府・研究院と学术交流協定を結んでいるタイのチュラロンコン大学建築学部都市地域計画学科の学生32名が横浜国立大学に来学する機会があったので、同学生向けにアンケートを設計し実施した。また、本学在籍の東南アジア諸国出身留学生17名にも同一のアンケート調査を実施した。

(4) 試作品第1号へのアンケート結果分析

図3にあるように写真についての評価が低く、記事の意図が伝わりにくかったことが懸念される。

n=49



図3 試作品第1号の5つの記事への評価

また、図3にあるように、現在タイにある事例ではない、LRTの記事への評価が高いこともわかった。購入意思はあるものの以下に列挙するように、改善の課題が多く指摘された。

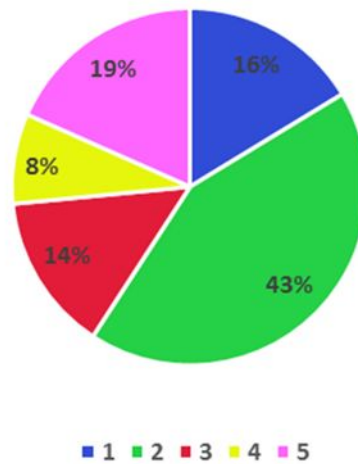


図4 試作品第1号の5つの記事の人気投票結果

<主な自由意見>

- ・雑誌の意図や記者の紹介があった方がよい
- ・写真がわかりにくい(写真の説明, 解像度の改善など)
- ・乗ってみたい
- ・筆者の意見や, 結論も示すべきである
- ・いろいろな交通機関の比較がほしい
- ・レイアウトが興味深くない
- ・LRT(外国のLRTや導入目的等)を詳しく知りたい
- ・既に知っている情報であり, より次につな

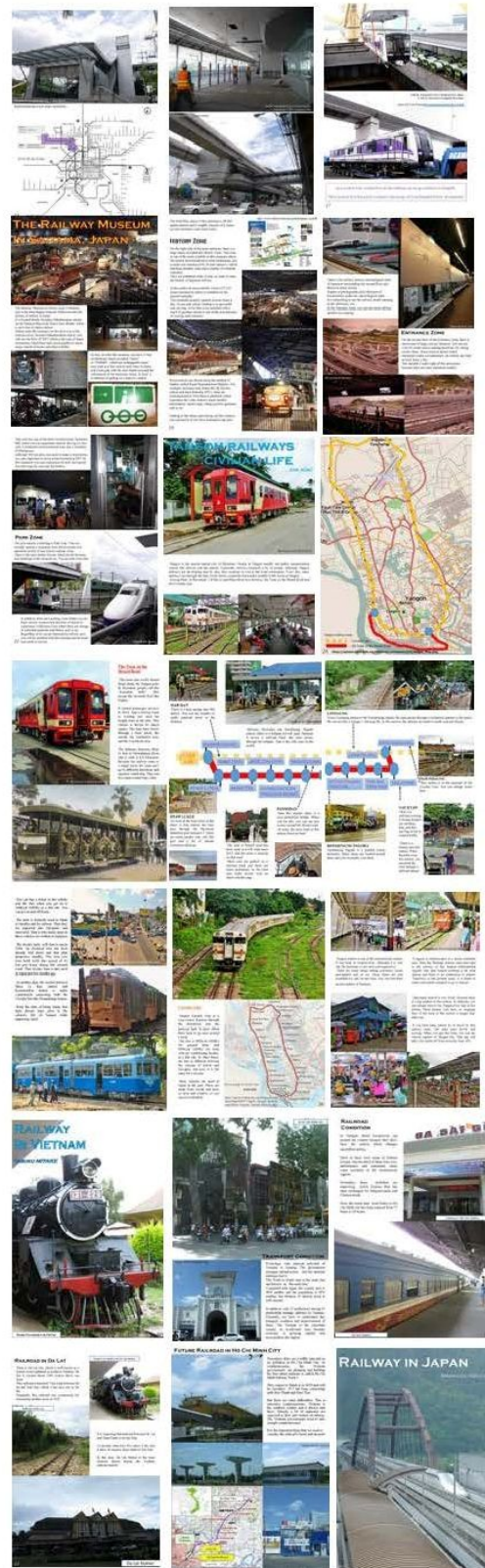
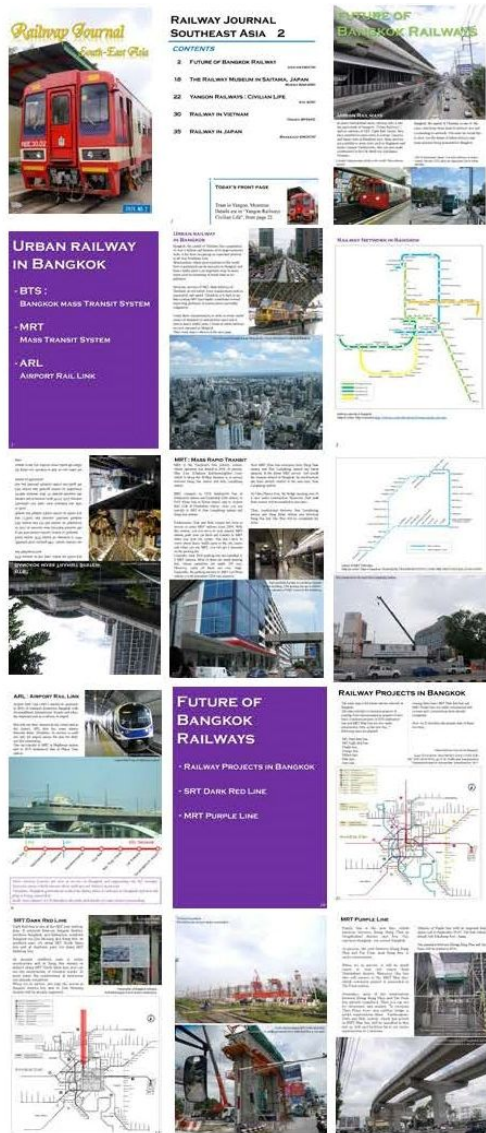
がるものが欲しい

- ・公共交通を使うことの意義や効果、本当に必要かどうか知りたい
- ・今後の事業についての情報がほしい

(5) 試作品第2号の作成

第2号では、検討の結果、以下の5つの記事を盛り込んだ。フォントや写真については最大限工夫を加えた。試作品第2号については、以下図5に示す。

- バンコクの新規鉄道建設
- 大宮の鉄道博物館
- ヤンゴンの鉄道
- ベトナムの鉄道
- 日本の鉄道



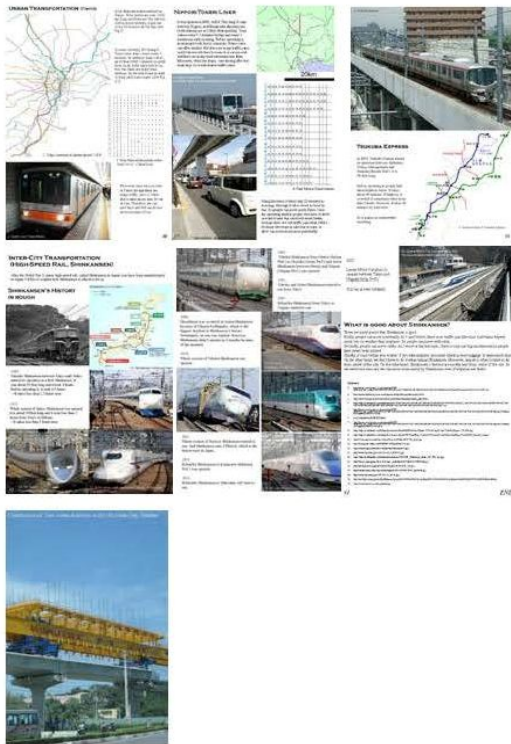


図5 試作品第2号

(6) 試作品第2号に対するアンケート調査の設計と実施

試作品第1号に対するアンケートと同様のものを作成し、2016年1月にバンコク市内の大学生59名に調査を実施した。

(7) 試作品第2号へのアンケート結果分析

図6に示すように、第1号に比べて評価は高く、特に日本の記事への関心が高いことが確認できた。全体的に評価は高く、購入意向も向上している。また海外事例を含め公共交通への幅広い関心の可能性も把握できた。

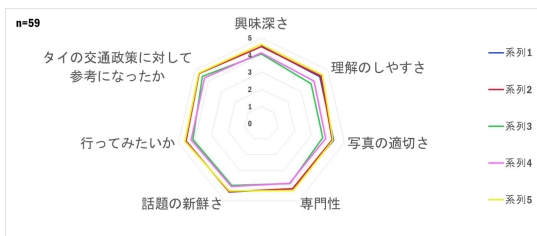


図6 試作品第2号のアンケート結果

図7に購入意思を集計した。関心の高さが伺える。

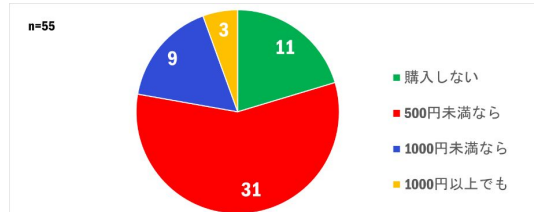


図7 試作品第2号の購入意思

(8) まとめ

今回の研究では、当初予定よりは少ないが、試作品第1号および試作品第2号をとりまとめることができた。これらに対するタイ人の反応は想定をはるかに超えて好意的であり、彼らにとってみれば、今までにないジャンルの雑誌（形態としては実質はニュースレター）として受け入れられ、公共交通への関心を高めるきっかけになっていることが推察できる。

ニュースレターとしての質の向上に時間と労力を要したが、この種の活動を通して、自国の鉄道輸送の現状と課題、海外の先進事例や問題事例の理解を通じた交通政策への関心の高まりなどの可能性は十分にあり、ニュースレターの継続的な発行が期待される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

中村 文彦 (NAKAMURA, Fumihiko)  
横浜国立大学・大学院都市イノベーション  
研究院・教授  
研究者番号：70217892

### (2)研究分担者

岡村 敏之 (OKAMURA Toshiyuki)  
東洋大学・国際地域学部・教授  
研究者番号：90314781